

世界希少・難治性疾患の日 カラーライトアップの実施について

毎年2月末日は「世界希少・難治性疾患の日」です。

県では、これに合わせ、希少・難治性疾患についての理解や支援の輪を広げることを目的として、**県庁昭和庁舎をシンボルカラーの「青・ピンク・緑」の3色にライトアップ**します。これは**群馬県庁として初の取組み**となります。

1 期間

令和7年2月28日（金）から3月2日（日）まで

2 時間

日没（午後6時頃）から午後10時まで

3 場所

県庁昭和庁舎（前橋市大手町一丁目1-1）

世界希少・難治性疾患の日（RDD）とは

希少・難治性疾患とは、患者数が少ないことや、病気のメカニズムが複雑なことなどから、治療・創薬の研究が進まない疾患を指します。

世界希少・難治性疾患の日（Rare Disease Day, RDD）は、世界中の希少・難治性疾患の患者さんやご家族にとって、より良い診断や治療による生活の質（QOL）の向上を目指す活動です。うるう年の2月29日が「希少（Rare）な日」であることにあわせ、毎年2月最終日が定義日となっています。

2008年からヨーロッパでスタートした本領域世界最大の社会啓発イベントであり、現在は述べ100カ国でRDDが開催されています。日本では、2010年の東京開催を皮切りにして、毎年着実に開催地域が増えています。

※RDD Japan ホームページより引用・一部加工（RDD Japan ホームページ <https://rddjapan.info/>）